

2013年度日本子育て学会研究プロジェクト

① うちの子は、どの園と合うのかな？

公立の小中学校教育とは異なり、幼児教育や保育はさまざまであり、百花繚乱といってよい。親にとっては、何歳から入園・入所させるか、幼稚園と保育所のどちらに入れるかから始まり、どのような園・所を選ぶかは、大きな悩みである。このプロジェクトでは、いくつかの典型的・あるいは特徴的な園・所、独自の教育・保育を行っている園・所などを対象に、教育・保育スタイルと子どもの成長・発達に関連について考えてみる。これらを研究するには、保護者（親）、支援者（教諭・保育士）、研究者、三者の視点が必要である。本プロジェクトでは以下の二つの具体的なサブテーマの下で行う。

- (1) 幼児教育の特色が子どもの発達（長期的・短期的）にどのような影響を与えるか
- (2) 認定こども園の現状・評価と今後の展望

（世話役：青柳肇・喜多濃太香・大熊美佳子）

（連絡先：青柳肇，早稲田大学，aoyagi@waseda.jp）

② 子育て文化の環境は？ 子育ての担い手としての家族・地域・園や学校の役割とは？

子育て中の親子のまわりには「親族や友人」、「保健医療、行政や保育教育の専門家」、近年増えている「多文化な家族」も含む多様な人々が、子育ての担い手として「子どもの安全と幸せ」を目ざしている。しかし、現実には連携による調和だけではなくて、お互いの期待感にズレが出ている実情も見逃せない。そこで、「日本の子育て意識や規範、心の拠り所となるしつけや教育環境」という大きなテーマのもとに集い、個々の立脚点から意見を出し合い、そこから研究活動として広げていきたい。現在とこれからの子育て文化の環境を多角的な視点から共に明らかにしていきたいと思います。

（世話役：山岡テイ・勝浦範子・石井富美子・近藤清美）

（連絡先：山岡テイ，情報教育研究所，kosodatebunka@gmail.com）

③ 子育ては乳幼児や児童の問題なのか？思春期・青年期をどうするのか？

思春期に入って子どもの気持がつかめない…、悪い仲間とつきあい始めているようだがどう親として向き合ったらよいのか？ こういう親の悩みはごくごく普通に聞かれる。

しかし、親からの自立や巣立ちの時期として捉えられてきた思春期・青年期が、子どもの精神的成熟の遅れという時代性の中で、より親子や家族の問題として浮かび上がってきていることに注目する必要があるだろう。この問題で連携が遅れている、研究者、子育て実践者、子育て支援者が、三位一体となって、共有できるテーマを模索し、探求しましょう。

（世話役：矢澤圭介・長谷川佳代子）

（連絡先：矢澤圭介，立正大学，aporon@oak.ocn.ne.jp）

④ 「震災の子どもの支援」

このプロジェクトは去る 3 月 11 日の大地震における、被災者子どもの支援のための追跡研究として立ち上がりました。当初は被災地等へのボランティアの派遣も提案されましたが、相次ぐ避難所の閉鎖のために、これは実現していません。現在は文部科学省の委託研究「東日本大震災が幼児に与えた影響や課題等に関する調査研究」の公募にエントリーしており、申請が通り次第、被災地域にある全幼稚園を対象に、園の状況、問題の所在、対応などについて園長および被災児の担当保育者へのアンケート調査を実施する予定です。

(世話役：勝浦範子・寺澤美彦)

(連絡先：寺澤美彦，日本福祉教育専門学校，yoshihiko@theia.ocn.ne.jp)

⑤ 「保育者養成の学際的研究」

保育者と呼ばれる専門職（保育士・幼稚園教諭）は、家庭の子育てと密接に結びついた職務が求められている。本プロジェクトでは、保育者養成をテーマとして、「子育て」に関する学びをどのように位置づけるか（カリキュラムの問題）、「子育て」に関する体験的な学びの機会をどのように保障するか（保育実習・教育実習の問題）、臨床保育等について、福祉（保育所・保育士）と学校教育（幼稚園・幼稚園教諭）の枠を学際的に捉え、自主研究会やシンポジウム等の企画、内外のネットワークとの連携を通して、様々な子育ての場に対して発信することを目的とする。

(世話役：高橋貴志・大竹智・寺澤美彦・望月雅和・加賀谷崇文)

(連絡先：高橋貴志，白百合女子大学，taka2.shirayuri@gmail.com)

*各連絡先のメールアドレスについては、◎を@に変換してください。